

- JR東日本グループは、2020年度、新たな環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ2050」を策定し、グループ一体となって、2050年度のCO2排出量「実質ゼロ」に挑戦している。
- 今回の計画では、脱炭素効果が大きいVVVFインバータの半導体素子にSiCを採用した車両、ハイブリッド車両を導入することで、「脱炭素社会」への貢献とともに、環境優位性のさらなる向上と、サステナブルな社会の実現を目指す。

<事業適応計画の概要>

1. 事業適応計画の実施期間

2025年4月～2028年3月

2. 生産性向上目標・新需要開拓目標

炭素生産性を21.7%向上させる。

3. 前向きな取組の内容

仙台車両センター（宮城野派出）において、VVVFインバータ非搭載車両からVVVFインバータの半導体素子にSiCを採用した車両への置き換えを行うことで、炭素生産性を改善させる。

ぐんま車両センターにおいて、内燃車からハイブリッド車両への置き換えを行うことで、炭素生産性を改善させる。

その他の車両センターにおいても、VVVFインバータ非搭載車両からVVVFインバータの半導体素子にSiCを採用した車両への置き換えを行うことで炭素生産性の改善を実現していく。

4. 支援措置

税制措置（カーボンニュートラルに向けた投資促進税制）

<取組の内容のイメージ>

仙台車両センター （宮城野派出）車両置き換え

【置換前】
205系：非VVVF



【置換後】
E131系：VVVF(SiC素子採用)



ぐんま車両センター 車両置き換え

【置換前】
キハ110系：内燃車



【置換後】
HB-E220系：ハイブリッド車両

